

国際交流活動ニュース

MACROCOSM



CONTENTS

- 2 第17回青少年国際交流全国フォーラム 埼玉大会
- 10 日本・ASEANユースリーダーズサミット
- 12 平成22年度 いばらき若者塾事業
- 13 内閣府青年国際交流事業 大学説明会

マクロコズム

青少年国際交流事業事後活動推進大会 日本青年国際交流機構第26回全国大会 第17回青少年国際交流全国フォーラム 埼玉大会報告

平成22年11月27日(土)～28日(日)、埼玉県秩父市にて、第17回青少年国際交流全国フォーラム、日本青年国際交流機構(IYEO)第26回全国大会が実施されました。大会テーマは「絆をつなごう、^彩の国から～Wings for the Future～」とし、「彩の国」にふさわしい多彩な魅力を有する基調講演、分科会が設けられ、全国各地から300名以上が集い、大盛況のうちに終了しました。

大会日程

第1日目・11月27日(土)	
12:30	受付
13:30	開会式
14:00-15:15	基調講演「今こそ“日本力”」 講演者 野中ともよ氏 (NPO法人ガイア・イニシアティブ代表)
15:30-17:30	分科会
19:00	懇談会
第2日目・11月28日(日)	
9:00	表彰式
9:30	内閣府青年国際交流事業帰国報告会／事後活動紹介
11:00-11:15	閉会式



開会式での(財)青少年国際交流推進センター上村知昭理事長あいさつ

■基調講演 「今こそ “日本力”」

講演者：野中ともよ氏 (NPO法人ガイア・イニシアティブ代表)

平成22年11月27日(土)

於ナチュラルファームシティ農園ホテル

ご紹介ありがとうございます。野中です。まずは、50年間続いている皆様のこのような素晴らしい活動の年1回の会合でお話をする機会を与えていただきましたことに、心から感謝いたします。私は東京生まれの東京育ちですが、今日、はじめて秩父に来ました。池袋から1時間半以内でこんなに自然の懐の深いところが私たちを迎えてくれるのです。すっかり惚れこみました。ここを開催地選ばれた実行委員長、本当にありがとうございます(笑)。

さて、本日お集まりの皆さんのミッションは重大です。最近では、殻に閉じこもって、リスクをとりたくない、海外に行きたいと思わない若者が増えていると言われていています。私たちの時代は、海外に行きたいから、商社に入る、マスコミの特派員になるといった傾向があり、青年にとって就職という窓の先には、「海外」が見えていました。ですから、「青年の海外交流」とか「青年の船」と聞くと、何かミッションを帯びて船に乗るというイメージがあっただけよかったです。でも、今は、本音を言うと、若い人たちの間で「青年の船」にかっこいいイメージはないと思いませんか。「青年の何とかっていう事業があるんでしょう。どうせ、船に乗ってラジオ体操したりするでしょ。そんなのに参加するより、ニューヨーク8泊10日とかのツアーでブロードウェイに行ってミュージカルを見たほうが楽しいじゃない」こうした見方がある一方で、海外は危険だとか、海外に行くと病気になるとか、だまされるとか言って恐れている人もいます。情報がたくさん集まるがゆえに、いろいろな考えに振り回されてしまうのです。

どうしてこうなってしまったのでしょうか。「若者のくせに、しょうがないな」と批判をしても仕方ありません。青年を育

てきた大人たちが、このような価値観を植えつけてしまったのだと思うからです。ですから、このような時代にあって、若い人たちに「私たちはとても楽しい経験をしたし、その経験を通して、おもしろい未来が作れるんだよ」と、ご自身の言葉で伝えてくださる皆さんに聴いていただきたいのが、「日本力」という単語です。

景気は回復しなくていい

「野中さん、「日本力」って言うけど、世界第二位の金持ち国だった日本は、もう、だめなんだよ、こんなにバブルがはじけちゃったし」とおっしゃる方がいます。また、街頭インタビューで「政府に何を期待しますか」と質問すると、ほとんどの人が、「景気回復です」と答えます。経済のご専門の方もいらっしゃると思いますが、はっきり申し上げて、日本は、経済回復しません。あの頃のように戻るというのを回復と呼ぶのなら、もう、できません。ずっと、前年同月比が必ずプラスで、しかも世界に伸びていく経



済力を維持することは、この島国で、人口が減少していく我々の国ではもう無理なのです。回復ではなく、あの時に学んだこと、つまり、プラスの部分をかき、マイナスの面は二度と起こさないようにすることのほうが重要なのです。二度と起こしてはならないことがたくさんありますよね。私たちは、世界第一の公害大国をやりました。公害大国をやったからこそ、高度経済成長を成し遂げました。当時、ヨーロッパでは日本のような工場廃液を出すことは認められていませんでした。それを、「大丈夫、どんどん売れば、どんどん生産性が上がればOK」といって、まったく規制せずに工場廃液を垂れ流していたんです。でも、途中でとんでもないことをやっているのに気がつきました。だから、公害をもたらさないような自動車のエンジン、排気ガスのメカニズム、水の浄化等の開発に力を注ぎ、環境技術大国になることができました。

現在、我々の何倍もの人口を有し、経済成長の道を歩んでいる国が近くにあります。中国とインドという二つの大国です。「中国はすごいよね・・・日本はもうだめだよ」 こういう物差しは、私たちの目盛りから排除しなければなりません。じゃあ、日本はもうダメなのかということでしょうか。これからは、高齢化が進むこの島国は沈没していきだけなのでしょうか。とんでもありません。アインシュタインが教えてくれたように、全てのものには始めがあって、終わりがあるのです。

20世紀の高度経済成長は、都市生活を中心にして全てのものに限りはないという考え方でした。資源は使い放題、人間も使い放題です。残業もやり放題、たとえば、お父さんが子どもの誕生日に帰れなくても、子どもの誕生日を忘れてしまっても、とにかく長時間働いて、サービス残業をして、ボーナスや給料や肩書きがどんどん上がれば、いいお父さんだ、という感覚が私たちには残っていませんか。でも、こんなことをしても、幸せな、人間の命が輝くような人生は送れないことを私たちは学んでしまいました。このように、始まりがあるものには、終わりがあるのです。でも、終わりは、新たなものの始まりですよ。ですから、私たちは、経済で言う成長の社会から、経済も成熟し、人間社会生活も成熟している社会に入っていると野中は思います。

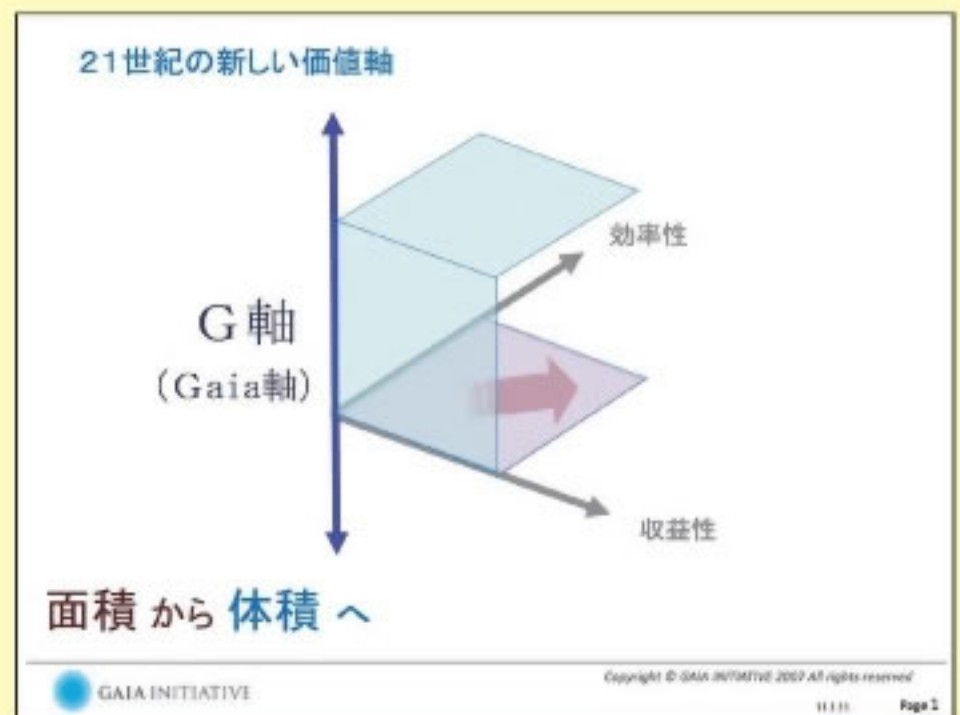
では、成熟社会の物差しは何でしょうか。ご存知の方も大勢いらっしゃると思いますが、田坂広志さんという哲学者でもあり、経済界のメンターとして、経営のアドバイスをなさっている方がおられます。田坂さんは、成熟社会とは「目に見えないものの価値が分かる社会」であるとおっしゃっています。

例えば、「あの山に登りましょう。あの山は333メートルだから、1分あたりこれくらいのスピードで上ると〇時間かかる。7時間かけるより、6時間で上ったほうがよい、だから・・・」というように、皆にとって分かりやすい数値化できる目盛りがあります。アメリカ合衆国のことを考えてください。世界各国からいろんな言語、文化を背負った人々が集まってつくった国ですから、共通の言語が必要です。その際、お金という目盛りはとても便利です。お金の目盛りで30ドルと言われれば、だれでも理解できます。30ドルという価値があるということです。これを40ドルもうかるようにしましょう、たとえば、非常にわかりやすいですね。では、野中が今日お話ししたい「日本力」の目盛りは何が基準になるでしょうか。

21世紀の新しい価値軸「ガイア軸」

「日本力」と聞いて思い浮かべるのは、まず経済力、GDPだと思えますので、これを成功の目盛りに見てみます。X軸には、「収益性」と書いてありますが、(資料1)「お父さん」でもいいのかもありません。お父さんの給料がいくらとか、企業の売り上げはいくらかということがX軸に置かれます。でも、20世紀最後になると、本当に効率よくもうかっているかどうか、投資に対して収益がどれくらいあるのかとか、経営の効率性が求められるようになります。しかし、野中が会長をお引き受けした企業は、例えば、2兆5000億の売上に対して、営業利益率は1%を切っていました。これがまずい状況だということが分かるように、投下した資本がどれだけ利益を生んでいるのかを測る「投資収益率」ROIとか、「株主資本利益率」ROE等の指標が使われるようになってきました。

私は、X軸、Y軸に加えて、「命の目盛り」である3次元の「ガイア軸」という目盛りを加え、面積ではなく、体積で測る方法を考えてみました。例えば、売上もあり、効率もよい会社があるとしても、その会社が非常に有毒な工場廃液を排出していれば、この3次元の目盛りはマイナスになります。そうすると、いくら面積が大きくても、体積でマイナスの評価になりますよね。その企業が命にとって良いことをしているのか、命を汚すようなことをしているのかを測るために「命の目盛り」というものを設定する。このような新しい価値軸を考えていくことが経営にとっても必要ではないかと思えます。



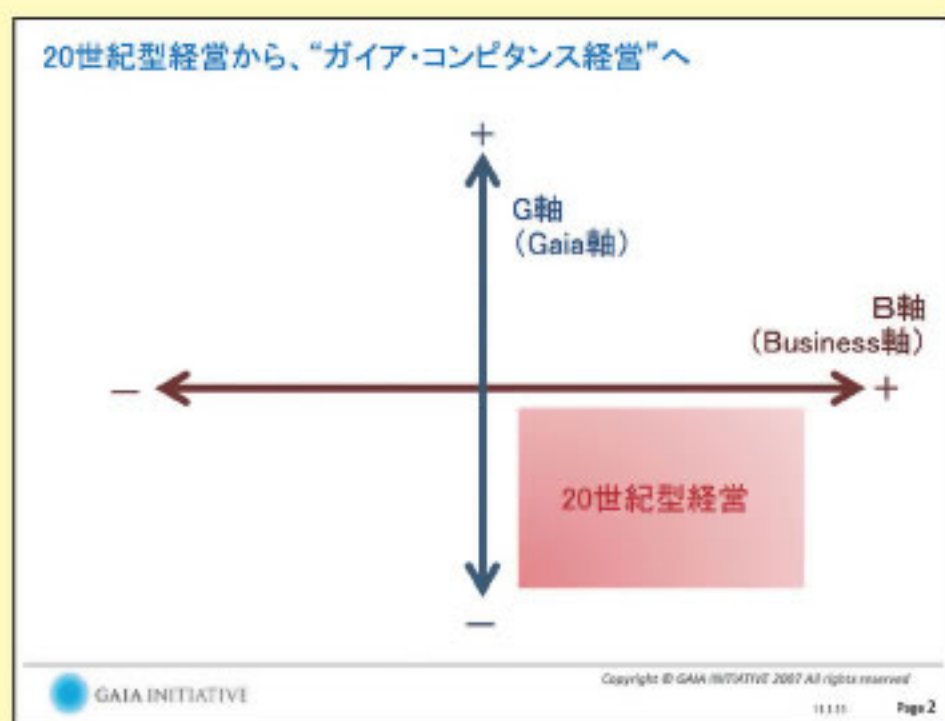
資料1

限りがある面積と、限りのある体積と空気と水と大陸の上で私たちは命をいただいています。私たち人類以外にも200万種類あるいは2000万種ともいう、たくさんの命が乗っています。この命一つ一つには全て役割があります。この部屋を密封して、酸素がなくなってしまうと、私たちの命はなくなってしまいます。水が飲めなければおしまいです。私たちの食べ物を作ってくれる土が死んでしまったら、命は全滅します。重要なのは、この地面の大きさは昔からほとんど変わっていないということです。それなのに、人口は、1900年から2000年の間にどれくらい増えたと思いますか。ぜひ、調べてみてください。同じ面積の上に、ぞっとするくらい人口が増えているのです。

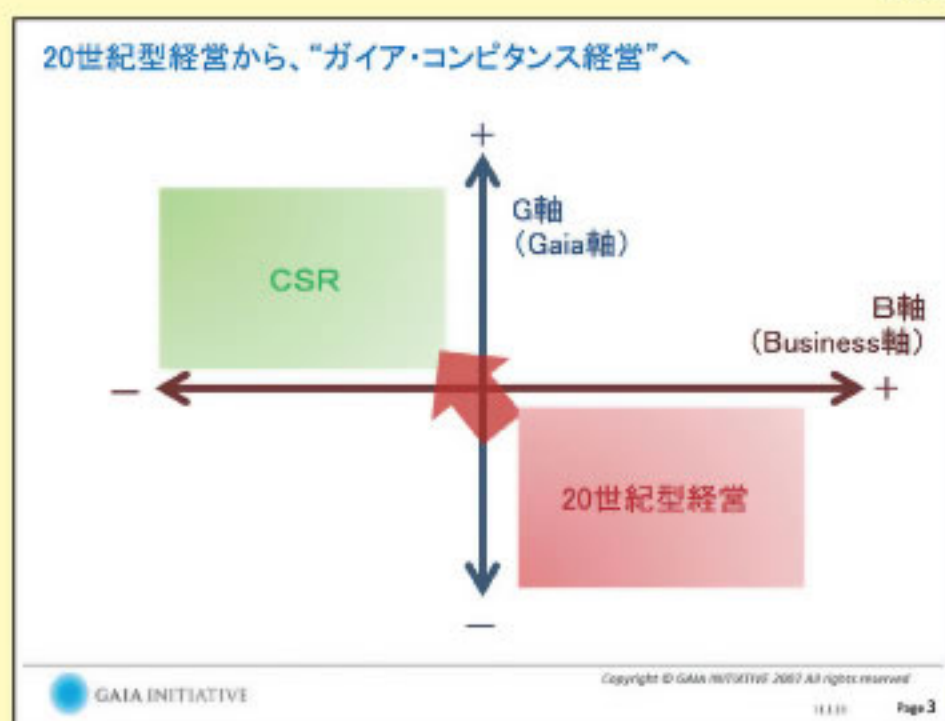
新たな成熟した社会のために

さて、先ほど申し上げたものを2次元の図表にしてみました。X軸をビジネスの軸に、Y軸をガイアの軸、命の目盛りにしました。20世紀は、売上さえ上がって、世界シェアをどんどん広げていくことが大切でした。流してはいけない排水を流してしまったり、良くない酸化防止剤や着色剤入れてみたり、命にとってはマイナスであっても、売上が伸びて、世界で大きな仕事をしているなら、20世紀型の経営にとってはOKだったのです。(資料2)

でも、私たちは、20世紀の後半にこんなことばかりしてはいけないということに気がつき始めます。そこで、CSR(企業の社会的責任)という単語がでてきます。企業も社会的責任を果たさなければならないということです。(資料3) ガイアが喜んでくれるボランティア休暇とか、植林とか、Table for Twoというものもありました。Table for Twoとは、自分たちが社員食堂でごはんを食べる時に、もう一人、向こう側に途上国の飢餓で苦しむ人を思い浮かべて寄付をしましょうという活動ですね。



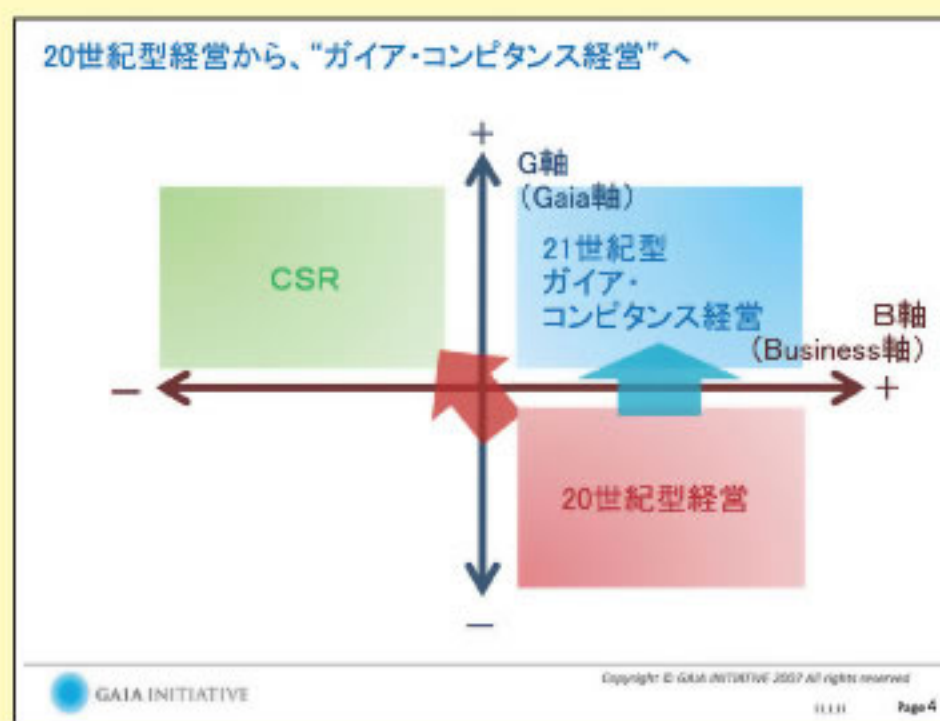
資料2



資料3

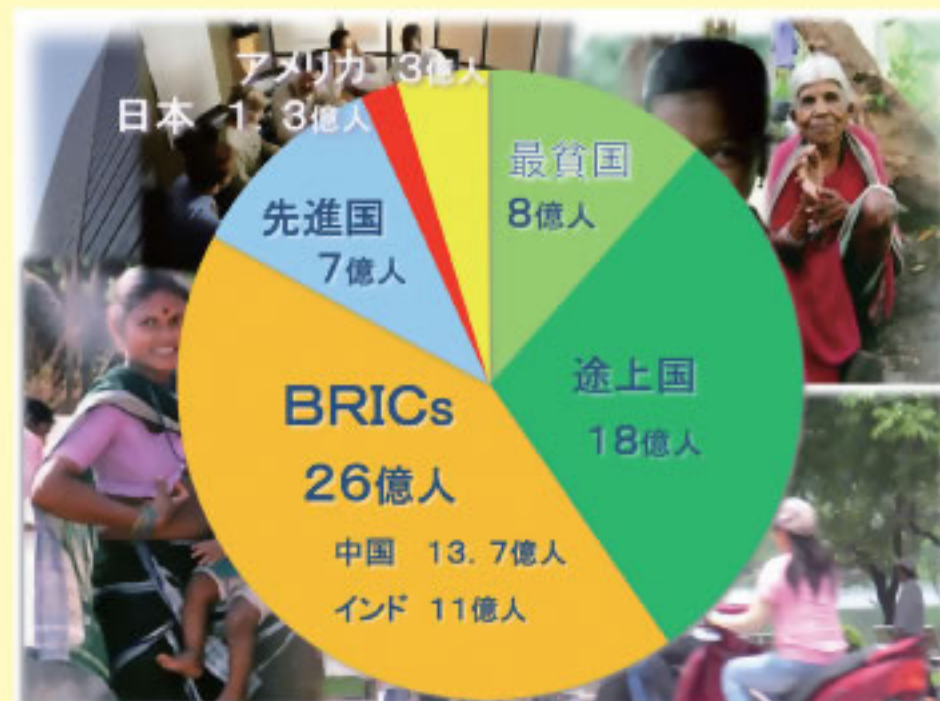
でも、企業としてはボランティア休暇なんてマイナスなんですね。社員が休暇なんて取らないで働けば、もっと売上が上がるわけです。でも、経営的にはマイナスであっても、社会的によいことをしないとイケない。そもそものおこりは、IRレポートの登場です。株価をチェックして投資家から投資をしてもらうためのレポートがあって、CSRを考慮しない企業にはお金が集まらない

という動きが出はじめました。ですので、やらないよりはやった方がよいのです。でも、先ほど申し上げたように、21世紀は限りがある資源の中で、我々人類もパンダもキリンもミミズもネコも犬も命を育ててもらっています。生きているのではなくて、生かされているんだということに気がついた社会は、ガイアの軸、つまり命が喜ぶようなことを目的にしたビジネスをすることが、ビジネスのプラスをより加速させることになると考え始めています。自分の会社にしかできないことをするという、つまり、経営の用語では「コア・コンピタンス」と言います。企業は、企業としてコアのコンピタンスに忠実になって、そこで誰にも負けないようなことをするのがコア・コンピタンスです。(資料4) 同時に、先ほど申し上げたように、これをする方が、単なる景気回復ではなく、新たな成熟した社会の成長が望めるのです。



資料4

これは地球号の上に乗っている我々人類の構成表です。(資料5) 時計でいうと11時ちょっとくらいのところが日本の人口です。黄色い12時のところにあるのが、アメリカ合衆国です。10時から12時くらいのところにあるのが、いわゆる先進国です。BRICsと呼ばれている人たちがこれだけいます。BRICs以下の生活レベルをしている仲間が数多くいるのです。これは2005年～2006年のデータですが、インドの11億の人口の半数以上の人たちが、まだ「無電化村」という電気のない農村で生きているのです。地球号は、こんな状態にあるのです。日本の景



資料5

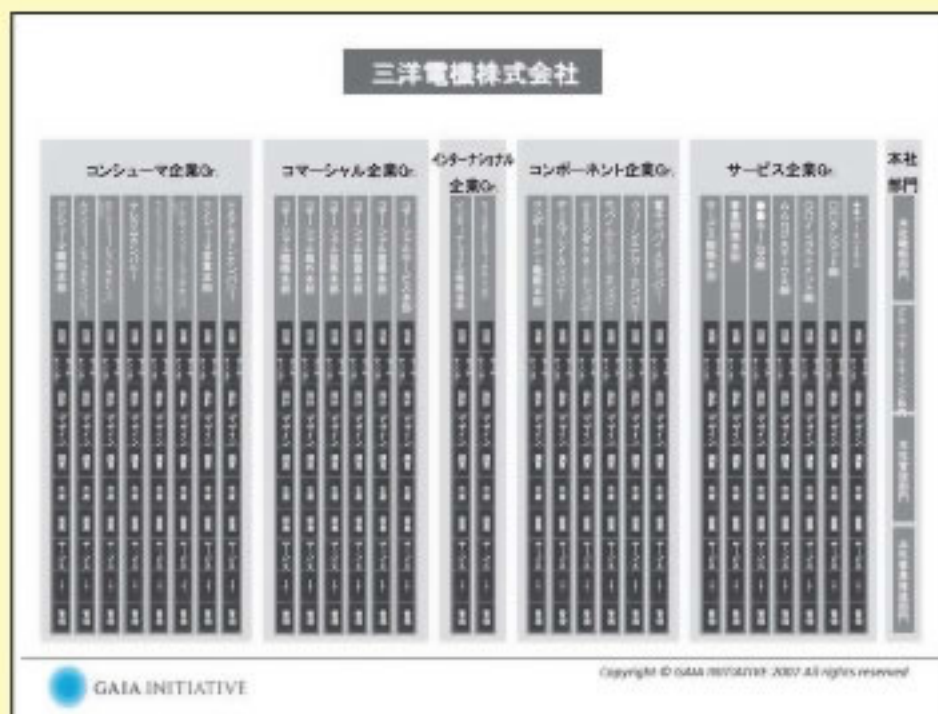
気が悪くなって、お父さんのボーナスが上がらないかもしれない等と言っている場合ではないと思いませんか。我々が戦後60数年間でやれたことを待っている人たちがこんなにいるんです。

でも、この人たちは最先端の技術を必要としているわけではありません。何が必要でしょうか。まだ、きれいな水を手に入れることさえできない人たちがいます。私たちは、成熟した国のミッションとして、この人たちのお役に立つことをし、その人たちの命が輝けるようなことをしてあげて、なおかつ、私たちもお金がかかるといえるような形になるのが望ましいのです。

いや、野中さん、そんなこと言ったら無理でしょう。ここまで来たら、日本は、一回、つぶれないといけないんです、とおっしゃる方もいます。でも、野中はつぶれそうな、先ほど申し上げた企業での経験があります。その経験を少しだけお話しします。

もったいない技術

その企業は、国内で3万人、海外で10万人の従業員がいる電機メーカーでした。野中は、会長になる3年前、社外取締役という全く外部から経営を見る役員になりました。それで、すごいことに気がついたのです。すばらしい技術があるということです。この資料(資料6)の縦の編が見えますか。これは、一つ一つがカンパニー制をとっていて、それぞれまったく違う半導体カンパニーであったり、コンポーネント会社であったりという形で全部が細分化されて、それぞれにITやデザイン、バックオフィス等の機能がついていました。この一つ一つのカンパニーが目指していたのは、2010年までに総売上10兆円の会社を目指せということで、それぞれに売上高目標がありました。だから、懸命になってコストを削減して、効率のよいものを作ろうとしていましたが、隣の会社がどんな技術を持っているかというようなことを考えることはありませんでした。



資料6

野中は、なんともったいない、非効率的なことをしているんだろうと思いました。ある半導体カンパニーは、工場を建設する際に必要な排水をきれいにする技術を持っています。でも、ここは半導体カンパニーですから、CPUを扱っているような人たちから見れば、一番ローテクで、どうでもよしい部門なわけです。でも、岡目八目の野中にはそれがすごい技術であるのが見えるのです。それだけ水をきれいにするのができるのなら、洗濯機に



活用したらどうでしょうか等。

このように、お互いが意思疎通をして、クロスファンクショナル、部門間協力ができるとすばらしいものができ上がります。このように、異文化がつながる時に必要なのは、ビジョンですので、Think GAIAというビジョンをつくりました。「人の命と地球の未来に貢献できるアホな電機会社を目指しましょう」というものです。「アホ」というのは、「熱く惚れる」の短縮形です。そうして、Think GAIAインキュベーションプロジェクトというものを立ち上げ、会社の全ての技術の棚卸をしたのです。

その結果、環境分野で貢献できることが分かってきました。クリーンエネルギーを作る電池、太陽光発電、水素電池等の技術があるのです。これまで水素電池のことだけしか考えていなかった人たちが、太陽光電池のことしか考えていなかった人たちと結びついたら、本当にすごいものができあがります。例えば、たった2年の間に、太陽さえあれば、1000回使える電池が完成しました。それが今日では1500回にまで改良されています。また、皆さんもご存知のように、我々の惑星には、淡水は0.001%しかありません。これを洗濯機でどんどん使っているのは申し訳ないので、水を使わない洗濯機も生まれました。ですから、新たな設備投資、研究開発投資は不要なのです。必要なのは、我々の意識、なぜ、働くのかということ、生まれてきた命をどのように使っていくのかというビジョンと方向性を共有することなのです。

自分から「つなげる」

この会社では本当にいろいろなことがありましたが、私はここで「日本力」として学んだことがあり、これをいかして作ったのが「ガイア・イニシアティブ」というNPO法人です。「日本力」と聞くと、「世界トップの技術力」という点だけを考えがちですが、そうではなく、そこに加える私たち固有の伝統文化の力が重要です。我がNPOの標語は、「つなぐ、つなげる、つながる」。人は一人では生きていけないということに気がついており、つなぐ必要があると誰しも思っています。でも、思っただけではつながりません。だから、「つなげる」のです。自分で一歩出るので、自分から「つなげる」のです。そうして、後ろを振り返ると、あれ、「つながっている」ことに気がきます。

行動をすることが大事なのです。他人を批判するのではなく、本当にこの国をどうにかしたいと思ったら、自分でつなげる必要があるのです。人間は、何を話すかではなく、何をするか、何をしたらか価値が決まるのです。ですから、最初の一個、ポンと

石を投げるという行動が非常に重要なのです。

白黒はっきりしない

実は、私たちは21世紀の地球に必要な「日本力」を既に持っているのです。私たちの文化は白黒はっきりさせないきわめて「いいかげんな」ものです。でも、この「いいかげんさ」つまり、「良い加減」がないとやっていけないのです。「イエスかノーか」という踏み絵で価値軸を決めていくだけでは、やっていけないということを私たちは昔から知っていました。

空気も水も土も食べ物もエネルギーも限りがある島国の中で、農民としてある村で生まれたら、一人の村人としてずっとそこで生きていくしかなかったのです。村の価値観では、いいかげんであったり、うそをついたりなんてとんでもないことで、表と裏を使い分けるのは、よろしくないと言われていました。でも、腹芸という言葉もあるように、これをうまく使い分けないと、移動の自由もない農民はやっていけない。とりあえず、しかたないから村長の言うことを聞いておくけれど、本当はちがうんだよねということがある。村長の言うことも一理あるけど、我々の言い分にも一理あるはずだし、じゃあ、どうしようか・・・と村人は考えるわけです。だから、違った意見が出てきたときに、両方の声に耳を傾けて、何か落としどころを探ることによってなんとか自分たちの営みを継続させていたのです。これがいいとか、悪いとかいう観点ではなく、この時に村人の目に見えていたのは、1回しかない命をどうやって営んでいくか、白黒はっきりつけられないけれど、大きな命の営みのなかで、自分たちがどうやって生きていくかということだったのです。

ガイア・イニシアティブの+1プロジェクト

さて、ここからは突然ガイア・イニシアティブの話になります。何をしている団体かという、2007年7月から「+1プロジェクト」というプロジェクトを立ち上げています。当時、「マイナス6%」という単語が日本で使われ始めました。当時の環境省が、ちょっとがまんして、二酸化炭素を6%減らしましょう、という運動を始めました。

でも、野中は、マイナス6%程度で済むような地球の状態ではないことがわかっていました。しかも野中は急げ者で、いいかげんですから、ちょっとガマンするというのは続かないな。みんな継続していくには、「ちょっと我慢」ではなく、もっと積極的に一歩前へ出る、行動する、というプランが必要ではないか。それ

で、ガマンの「マイナス」ではなく「プラス」で、「+1プロジェクト」にしたんです。夜、寝る前に、「今日は自分以外の命のために何か1個いいことをしたかな」と考えるため、+1プロジェクトと名づけて、様々なメニューを用意しました。例えば、木に興味がある人は木の問題を考え、開発途上国の子どもの教育に関心のある人はその問題を考えます。やはり、自分にとって興味のあるものは、継続することができるのです。一歩前へ出るというのが大切なのです。

つながる都市と山村「+1の森プロジェクト」

ガイア・イニシアティブの標語は、「つなぐ、つなげる、つながる」ですから、都会の若い人と、山間部の若者やお年寄りをつなぐプロジェクトも始めました。私は杉並生まれの港区育ちで、ずっと東京にいますが、東京にいる大勢の人間のために酸素を作ってくれるものはほとんどないんですね。あるのは街路樹くらいです。この人間に酸素を供給してくれているのは、山の葉たちなんだと思うと、これに感謝しないで一体どうするのか、という気持ちになって、「渋谷のど真ん中に王滝村の木で森を作ろうよ」、というプロジェクトを始めました。木は3本集まれば森になりますから(笑)。八チ公前広場に第1号の森が生まれました。王滝村は、財政破綻した夕張市よりもひどい財政状態なのに、2600ヘクタール以上の村有林を売らずに守ってくれているというのを聞いて、飛び込んで行って協定を結びました。東京からは、若者が出かけて行って王滝村で間伐をしています。

ソーラーランタン・プロジェクト

次は、先ほどご覧いただいたBRICsの人々も含め、開発途上国等、我々地球号の仲間思いをはせる人たちのプロジェクトです。世界には、電気がないために、子どもたちが夜中にトイレに行き、戻ってくるときにトラに食べられてしまうような村がまだあるのです。日中の太陽エネルギーを利用して、夜にふっと照らす街路灯のようなものがあれば、子どもたちの命を救うことができるかもしれない。それで、2007年にゴア前アメリカ副大統領と共にノーベル平和賞を受賞されたラジェンドラ・パチャウリ博士に協力して、無電化村の学校や、集会所にソーラーパネルとランタンを充電する充電ステーションを設置するプロジェクトを始めました。

村人は、朝仕事に出かける時にランタンを充電所に預け、夕方、充電所に寄って、1〜2ルピー程度を払ってランタンを受け取り、家に帰ります。この明かりの元で、料理をしたり、子どもたちは勉強したりできるのです。以前は、村人は灯油ランプを使っていたのですが、すすで、呼吸器障害や目の障害を起したりしますし、灯油ランプをうっかり倒すと、火事になってしまいますが、ソーラーランタンならその心配はありません。ここで集まったキャッシュで、村の青年たちは、このランタンの修理技術を学んだり、使い方の講習会を開いたりしています。

このような話をすると、どうやら、インドはもうかる国らしいと考えて、排気ガス等の規制で日本ではもう使えないようなものをインドに持って行って安く売ろうとする会社が出てきます。確かにもうかるように見えるかもしれませんが、その排気ガスは、偏西風に乗って、結局は我々の上に降り注いでくるのです。つま



り、我々は、宇宙船地球号の乗組員として、もうかる、もうからないというお金の目盛りではなく、一番安く一番いいテクノロジーを彼らにお届けするべきなのです。そうすれば、我々もきれいな空気を手に入れることができます。このような命の目盛りで物事を見るようにしなければ、これからの時代はやっていけないと思います。

さて、無電化村にソーラーパネルをお届けして、我々の考えている「発展」とか「発達」という目盛りが通用しないことを痛感しました。この村では、まだヤギや牛、鶏が財産と見なされています。お嫁に行くときには、こうした財産をどのくらい持っているかが問われるような場所です。でも、この無電化村では、ほとんど全員が携帯電話を持っているのです。

我々にとってのテクノロジーの発展とは、かつては黒電話で「ダイヤルを回して」いたものが、お弁当箱のように運べる携帯電話が登場し、その後、現在のようサイズの携帯電話が現れたということです。でも、実際には、この無電化村では、我々の考える電話の「発展」の段階を経ることなしに、つまり、黒電話やお弁当箱サイズの電話を所有する段階を経ずに、いきなり携帯電話を当たり前を持つようになっていきます。ですから、我々の経済とかテクノロジーの発達という目盛りは通じないのです。

我々は成熟社会にいますから、これからどんな面で途上国のお役に立てるかと言いますと、お金などたくさんあってもたいしたことない、と言ってあげられるということです。どんなにお金をもうけて、世界でトップの地位に登り詰めたとしても、年間10万人以上が自殺をするろくでもない社会になってしまうのです。私は無電化村に行っても感じるのは、こちらがこの国を助けてあげているのではなく、同時にたくさんの方を助けてもらっているということです。

我々は、省エネ生活をサステナブル(持続可能な)だと思っていますが、彼らは、無電化村で電気のお世話になどなっていませんから、昔から究極のサステナビリティ(持続可能性)を実践していると言えると思いませんか？ 私たちは、どれだけのお金と時間をかけて、いったいどれだけの公害患者や障害を持つ人を生み出してしまったのでしょうか。そんな私たちが、いったい何が幸せなのか、何に感謝をすべきなのか、途上国の人々にいったい何を持って行って差し上げればお役に立てるのか、そういうことを考えながら、地球の幸せのG軸を作るべきではありませんか。私たちは上からの目線で見のではなく、互いに平等な立場でコミュニケーションをして通じ合うことができる大切なパートナーです。そして、私たちは何のために生まれてきたのかということをお互いの知識の中で学び合えるのです。

何のために働くのか

私は祖父母と一緒に生活していたので、子どもの頃から耳にタコができるほど言われ続けていたのは、「働く」とは「はたを楽にして差し上げる」ということでした。そして、その対価としてお金をいただくということ、だから、お金をもらうのは決して悪いことではないということでした。また、私の名前の「ともよ」は Oh, my dear friend からきているということでした。私の父は、当時としては珍しく外資系のトップをしていたので、各国のいろいろな方がホームパーティーで自宅に来る。父は、私が大き



くなる頃には、日本にはもっといろいろな人が来るはずだと言っていました。その人たちは、肌の色も、生活習慣も宗教も違う人たちだけど、そのような人たちからも Oh, my dear friend, と呼んでもらえるような女性になってもらいたいこと、他の人から「これはどうしたらいい？」と相談されたら、「私はこう思う」と言って、それが人様のお役に立てるような人間になるようにといわれて育ちました。

ですから、あの企業でのポジションも、それ以前の3年間の取締役時代に、こうすればいいとか、何故そうならぬのですかなどなど、いろいろなことを言っていましたら、会長をやってほしいと言われて、「はい」と言って引き受けた(笑)。テレビでしゃべるキャスターになりたいと思ったこともありませんでしたし、会長になりたいと思ったこともありませんでしたけれど、そういうものをさせていただくことができました。

そうして、教えていただいたことはたった一つです。つまり、世界中の人、しかも自分とは全く価値観の違う人に教えていただけることのとときめき、他と違っていることの喜びです。互いに出会えたことの喜びや、自分が相手に何かして差し上げたことで、相手の命がぼっと光るようなことをどんどんつなげていけることの喜びです。皆さんにお願いしたいのは、新しい方に出会って、出会えてよかった、生きていてよかったという思いをぜひ広げていっていただきたいのです。皆さんの人生はあと100年ももちません。しかも一度しかないのです。そして、一度しか死ねません。ですから、自殺などする必要はありません。ちゃんとお迎えが来てくれます(笑)。自分にしかできないことに、エネルギーを使っていただいて、皆様の後続く新しい仲間をどんどん増やして行っていただきたいと思います。ご清聴ありがとうございました。



■分科会

今年度の大会開催地である秩父地域は、埼玉県の中でも歴史的・伝統的な文化を数多く継承しています。参加者は、多彩な分科会に参加することによって、県内の歴史・文化等、特色のある取組に触れて、埼玉県の魅力を再認識し、多文化への理解を深める機会としました。

分科会1



「非営利団体(NPO)のネットワーク形成」にて、自らの体験を元に説明をする毛受芳高講師

分科会2



「畑から見える持続可能な地球社会」にて、佐藤太講師の農園で農作業体験をする

分科会3



「浦山ダムにみる人と自然の共存」にて、地域に開かれたダムを視察する

分科会4



「合唱曲『旅立ちの日に』に込めた思い」にて、高橋浩美講師の指導の元、合唱する参加者

分科会5



「コミュニケーション力向上のためのレクリエーション」にて「負けるじゃんけん」というレクリエーションについて説明する講師

分科会6



「フォークダンスで異文化理解」にて、フォークダンスを踊る参加者

分科会7



「秩父の酒蔵から食文化について考える」にて、日本酒の歴史について学ぶ

分科会8



「絹織物の伝統技術に触れる」にて、美しく染め上がった藍染ハンカチを手にする参加者

分科会NO.	分科会名	講師	内容
1.【NPO】	非営利団体(NPO)のネットワーク形成	毛受 芳高氏 (NPO法人アスクネット総合プロデューサー／第8回「世界青年の船」参加青年／第10回「世界青年の船」ナショナル・リーダー)	基調講演を受け、NPOが目的を達成するために、同種の他団体や多分野の組織と継続的に連携していく必要性や実際に連携するにあたってのノウハウについて、講師の体験談をもとに意見交換した。
2.【環境①】	畑から見える持続可能な地球社会	佐藤 太氏 (「持続可能な発展」研究者／第19回、21回、23回「世界青年の船」指導官)	埼玉県小川町で自給的暮らしを作りつつ「持続可能な発展」の研究をされている講師とともに、食、自給、お金、コミュニティの切り口から持続可能な社会作りについて考えた。
3.【環境②】	浦山ダムにみる人と自然の共存		「地域に開かれたダム」として知られる浦山ダムを視察し、人々の暮らしを支えるライフラインとしての役割、そして開発に伴う環境負荷という両側面から、人と自然の共存について考えた。ダムの頂上からは、美しい秩父の秋景色が一望できた。
4.【教育①】	合唱曲「旅立ちの日に」に込めた思い	高橋 浩美氏 (埼玉県立秩父特別支援学校教諭)	日本全国の卒業式で歌い継がれている、秩父発祥の合唱曲「旅立ちの日に」を作曲した高橋浩美先生に、歌に込めた思いをお話いただき、教育のあり方や青少年へのアプローチについて考えた。また、参加者全員で合唱も行った。
5.【教育②】	コミュニケーション力向上のためのレクリエーション	埼玉県レクリエーション協会	国際交流の場づくりに役立つ効果的なレクリエーションの手法を学び、コミュニケーション力アップを図った。世代や国を問わず、すぐに使えて打ち解けられるレクリエーションの秘訣が満載であった。
6.【文化①】	フォークダンスで異文化理解	埼玉県フォークダンス連盟	地域や国の文化に根ざしたフォークダンス。メンバー全員で様々な国の踊りを体験するとともに、踊りに込められた思いに触れ、文化の伝承やアイデンティティについて考えた。
7.【文化②】	秩父の酒蔵から食文化について考える		武甲山の名水を用いて伝統的な酒づくりを営む武甲酒造を視察し、日本酒の歴史や製造過程について学んだ。また、関東屈指の古社として知られる秩父神社も訪れた。
8.【文化③】	絹織物の伝統技術に触れる		「ちちぶ銘仙館」を訪問し、絹織物の歴史や地域性、製造工程について、体験も踏まえながら学んだ。染物体験を通して、自分自身で染めあげた藍染ハンカチを、お土産として持ち帰った。



第17回青少年国際交流全国フォーラム埼玉大会に集った参加者

日本・ASEAN ユースリーダーズサミット

平成22年10月30日～11月2日、東京の国立オリンピック記念青少年総合センターにて、「日本・ASEANユースリーダーズサミット」が開催されました。日本と東南アジア諸国連合(ASEAN)各国及びASEAN各国相互の連携を強化するために、より多くの青年が日本とASEAN各国を結ぶネットワークに参加することを目的として、駐日ASEAN各国大使館及び日本アセアンセンターと連携して行われる、ディスカッション及び文化交流を中心とした合宿型プログラムで、日本で公募されたローカル・ユース104名、「東南アジア青年の船」事業の参加者327名及び実行委員や運営関係者約70名が参加しました。



参加青年と懇談される秋篠宮妃殿下



【開会式】

秋篠宮妃殿下、駐日ASEAN各国大使並びに関係者が出席し、岡崎トミ子内閣府特命担当大臣(当時)及び駐日ASEAN各国大使を代表してDatuk Shaharuddin Md. Somマレーシア大使からあいさつがありました。参加青年を代表し、カンボジアユースリーダーのSin Sokuntheaさんがあいさつしました。

【日本・ASEAN文化交流プログラム】

「One Life One Asia -Unity-」をテーマに、第1部では、各国3分間のパフォーマンスと、11か国の参加青年とローカル・ユースによる合同パフォーマンスが行われました。第2部は、国ごとのブース展示があり、各国の事情について理解を深める良い機会となりました。また、交流促進ツールとして配布された「JAPAN・ASEANパスポート」を通じ、様々な言語を使いながら各国青年と参加者が楽しく交流する場面も見られました。

開会式及び「日本・ASEAN文化交流プログラム」には、一般来場者99名が参加しました。

【ディスカッション活動】

「青年の社会参加-より良い社会を目指して-」というテーマのもと、8グループに分かれて行われました。最終日には、話し合いの成果をグループごとに発表し、「メッセージ」がまとめられました。

日程

日付	活動内容
10月30日(土)	ローカル・ユース事前研修 (オリエンテーション、ディスカッション講座、パフォーマンス準備)
10月31日(日)	ローカル・ユース事前研修(ディスカッション活動) 「東南アジア青年の船」事業参加青年入所 全体オリエンテーション、ディスカッション・グループ活動
11月1日(月)	「日本・ASEAN文化交流プログラム」準備 「日本・ASEANユースリーダーズサミット」開会式 「日本・ASEAN文化交流プログラム」 (各国紹介パフォーマンス・各国紹介展示) 交流の夕べ
11月2日(火)	小宮山宏氏基調講演 「地球社会の未来を創る～日本の経済を活かして～」 ディスカッション・グループ活動、サマリープレゼンテーション ローカル・ユース修了式、歓送会



ディスカッションのサマリープレゼンテーション



「青年の社会参加-より良い社会を目指して-」をテーマに、ディスカッションをする参加者



色とりどりの民族衣装を身にまとったミャンマー参加青年によるパフォーマンス



ディスカッション・グループでの記念撮影

ディスカッション まとめメッセージから抜粋

私たちは、このディスカッションを通して、体験や理想や希望だけでなく、自分たち自身のアイデンティティや文化をも共有するという貴重な機会を得ました。そして、今日の若者に与えられている機会と責任を明確に認識しました。

私たちは、より良い社会に向けた希望と夢を明確にし、願望を実現させていく私たち自身の能力、努力、力強さを認識し、同様に、社会における重要な構成員である私たちの力を認識し、それぞれの国においてリーダーとなることができる能力を認識します。

そして、お互いに多くの共通点があることを発見できたことは大きな喜びでしたが、より重要なのは、独自性の尊重と受容を相互に学び、社会活動への参加と貢献の価値を理解したことです。

私たちは、教育、環境、文化、地域活動、保健、青少年育成など様々な分野において幅広く社会活動を行っていることを、認識しました。私たちの社会が直面している課題や懸念は多岐にわたりますが、もっと多くのことに私たち自身が対応することができる信じ、また対応していきたいと希望しています。

ディスカッションを通じて、私たちは未来へ向けて共に創り上げたい社会を思い描くことができました。

それは、私たち自身の共通点と独自性を相互理解することで、平等と調和によって特徴づけられる社会です。また、人生や将来における選択を自ら行うことで、積極的に社会活動に関わる力をつけることは、より良い社会の実現において不可欠です。

最後に、私たち自身がより良い社会を作り上げるために若者として何ができるか、求められているのかについての考え方、能力、姿勢を認識するにいたしました。

各自の活動分野において、周囲の人に影響力を与えられるように、そして私たちの社会が一つのアジアになるように率先していきます。

私たち青年は、一人一人が未来への鍵となる存在であることを自覚して、社会に貢献し、社会活動において主導的な役割を果たす努力をします。



マレーシアの展示ブースでヘナを体験する

【感想】

ローカル・ユース 木本篤茂

正直に言うと、今まで「ASEAN」をひとくくりでとらえていましたが、ASEAN各国の青年が抱える問題と対策を考えるディスカッションを通じて、各国の状況を、そして、各国のダンスパフォーマンスや展示を通じて、「十国十色」の文化を学びました。

日本・ASEANユースリーダーズサミットが終わった今、この経験に満足せず、さらにASEANとのつながりを強くしていけたらと思います。シンガポールとマレーシアを訪れました。将来こうしたつながりがアジアや世界を変える力になると信じています。



ローカル・ユース 西川知里

熱気溢れる刺激的な4日間でした。こんなにも目がきらきらと輝き、プラスのオーラを放つ青年たちが集まる場に居合わせたことがなかったので、最初は圧倒されてしまいました。しかし、交流会等と一緒に歌ったり、踊ったり、笑い合ったりするうちに、どんどん心の氷が解けてローカル・ユース、参加青年、皆の心が一つになったと実感しました。ディスカッションでは、言いたいことがうまく言えず、もどかしい思いをする場面も多々ありましたが、話す以上に聞く力の大切さを痛感しました。教育問題を取り上げた際、外国参加青年はストリートチルドレンを、私は教室を思い浮かべました。互いの立場でよく「聞き合い」、最後には互いの現状に合った案にたどり着きました。やはり根底にあるのは相手を思いやる気持ちでした。参加青年から教わったこと、ローカル・ユースから気付かされたこと、ここで学んだことや出会った仲間を大切に、より良い社会の実現に向けて自分の役割を果たしていきたいです。



ローカル・ユースによるパフォーマンス(交流の夕べ)

平成22年度 いばらき若者塾事業

茨城県が主催する「平成22年度いばらき若者塾事業」の海外研修業務の委託を受け、(財)青少年国際交流推進センターは、事前オリエンテーションと韓国での国際交流プログラムを企画、実施しました。

海外研修は、8月20日(金)～24日(火)の4泊5日で行われ、茨城県の青年14名が、韓国青年15名との1泊2日の交流会や、施設訪問等のプログラムを行いました。

8月21日(土)は、同時期に開催された日韓交流連絡会議[※]の参加者とともに、上村理事長主催の夕食会が開かれました。

※「日本・韓国青年親善交流」事業に参加したOB/OGによる同窓会



ソウル市が運営する青少年メディア施設ススロネットを訪問し、テレビ番組の撮影を体験する



韓国のすごろく「ユンノリ」を体験する



日本の遊びを紹介する日本青年



ディスカッションでお互いに率直な意見交換をする



サムスン電子広報館を訪れ、韓国企業について理解を深める



韓国青年に茨城県の特色を説明する日本青年

(財)青少年国際交流推進センター主催夕食会



夕食会にて、あいさつする(財)青少年国際交流推進センターの上村知昭理事長



夕食会を楽しむ参加者

スケジュール

8月20日(金)	
16:30	仁川空港着
17:15	バス内オリエンテーション
21:00	ホテル着
8月21日(土)	
【8月21日(土)～8月22日(日)】(1泊2日) 日韓青少年交流会(於: DOBONG FOREST VILLE)	
10:30-11:10	開会式 交流会オリエンテーション、いばらき若者塾事業の説明
11:10-12:10	アイスブレイキング
14:00-15:00	レクリエーション
15:30-18:30	文化交流会 ①茨城県紹介(茨城紹介、お祭り紹介、お囃子披露) ②ソウル市紹介(ソウル紹介、伝統楽器による公演) ③日韓伝統遊び体験(羽根蹴り、独楽回し、おはじき、すごろく、射的等)
19:00-20:30	夕食交流会
8月22日(日)	
9:00-11:00	意見交換会(3グループに分かれて) テーマ:地域活性化と貢献のための青少年の社会参加方法について ①地域社会に貢献できる青少年の社会参加方法 ②自身が所属する地域社会の事例を紹介 ③今後自ら地域活動に参加できる方法を考える
11:30-13:00	昼食、閉会式
13:00-20:00	韓国青年とのシティツアー
21:30	振り返り
8月23日(月)	
10:30-12:00	ススロネット見学(青少年メディア施設)
14:30-15:30	サムスン電子広報館見学
16:00-18:40	明洞へ移動、自由時間
18:30-20:30	歓送会
8月24日(火)	
10:00	仁川空港発
12:00	茨城空港着
14:00	評価会

内閣府青年国際交流事業 大学説明会 実施報告

内閣府青年国際交流事業を広報するため、内閣府からの契約に基づいて、首都圏の大学を中心に「大学説明会」を実施しました。平成22年度は、10月21日(木)から平成23年1月12日(水)にかけて、23大学26キャンパスで開催しました。

説明会では、内閣府担当者からの事業説明の後、既参加青年が応募の動機や、事業に参加して自分がどのように変わったか、今後、事業参加の体験をどのようにいかしたいかなどを生き生きと語りました。応募を検討している学生も熱心に耳を傾けていました。

内閣府青年国際交流事業説明会の流れ(所要90分程度)

	プログラム内容	時間
1	内閣府担当者からの事業概要説明(5事業)	15分
2	事業既参加者の話(2名)	10分
	・船による海外派遣事業既参加者による報告 ・航空機による海外派遣事業既参加者による報告	10分
3	内閣府担当者からの平成23年度募集事業概要説明	10分
4	質疑応答&事業ごとに分かれて懇談会 (既参加者や担当者を交えて質疑応答)	30分



平成22年度大学説明会実施内容

月日	曜日	時間	大学
10月21日	(木)	16:40-18:10	上智短期大学
11月3日	(水)	14:30-16:00	東洋英和女子大学
11月9日	(火)	09:10-10:40	大東文化大学 東松山キャンパス
11月12日	(金)	16:45-18:15	筑波大学
11月15日	(月)	16:45-18:15	明治学院大学 横浜校舎
11月16日	(火)	12:50-14:20	法政大学 市ヶ谷キャンパス
11月19日	(金)	15:55-16:10	明治大学 駿河台キャンパス
11月22日	(月)	17:00-18:30	上智大学 四谷キャンパス
11月24日	(水)	16:25-17:55	明治学院大学 白金校舎
11月25日	(木)	17:00-18:30	早稲田大学
11月29日	(月)	13:10-14:40	東洋英和大学
11月30日	(火)	18:00-19:30	明治大学 和泉校舎
12月1日	(水)	17:30-19:00	横浜市立大学 金沢八景キャンパス
12月2日	(木)	18:00-19:30	明治大学 駿河台キャンパス
12月6日	(月)	12:35-13:05	青山学院大学 相模原キャンパス
12月8日	(水)	12:20-13:10	お茶の水女子大学
12月9日	(木)	16:35-18:05	中央大学 多摩キャンパス
12月13日	(月)	11:50-12:35	宮城学院女子大学
		17:00-18:30	東北大学 川内北キャンパス
12月14日	(火)	12:35-13:35	青山学院大学 青山キャンパス
12月15日	(水)	15:00-16:30	東京外国語大学
		15:00-16:30	獨協大学
12月16日	(木)	18:20-19:50	立教大学 池袋キャンパス
12月22日	(水)	18:00-19:30	慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス
平成23年 1月12日	(水)	12:50-13:20	関西学院大学 上ヶ原キャンパス
		17:00-18:30	関西大学 千里山キャンパス

明治大学内での説明会で体験談を語って

第22回「世界青年の船」事業 参加青年
石井みなみ

この話をいただいたとき、「私にしか伝えられないこと」は何だろう、と考えました。私は大学入学後の1年余りのほとんどの時間をアルバイトに費やし、やりたいこともわからないまま、なんとなく毎日を過ごしていました。そんなときに勇気を出して「世界青年の船」事業に参加すると、アクティブで信念を持って輝いている同世代の仲間に出会い、たくさんの刺激を受けました。一歩踏み出す勇気さえあれば、見える世界は100倍も変わってくることを強く感じたのと同時に、やりたいことがわからないのは、何もやっていないからだと痛感しました。その結果、興味のあるものにはすぐに飛びつきやってみるという勇気と行動力がつきました。きっと、参加前の私のような悩みを抱えている学生は少なくないと思ったので、私は特にそういった人たちに自分の体験談を話すことで、一歩を踏み出す勇気を持ってもらいたいと思いました。留学などの海外経験が全くない私でも、「参加したい!」という思いと、それを行動に移すほんの少しの勇気で参加でき、私の人生を大きく変えたということを一歩伝えようと思いました。



しかし私は人前で話すのがあまり得意ではありません。順序立てて話すのが苦手なので、普段であれば原稿を用意していたのですが、今回はあえて用意しませんでした。きっと堅い文章を通しての私の言葉は浅くて説得力に欠けてしまうと思ったからです。その結果、自分が実際にどのように話していたかは分かりませんが、説明会に来てくれた友人たちに後日「話を聞いてすごく行きたくなった!」と言ってもらえたので、私の思いは伝わったと確信しています。

「行かなきゃ損だよ!」というのは簡単です。ですが、それだけでは人を動かすには説得力が足りません。どうして参加しようと思ひ、参加して何を感じ、参加後どう変わったかを伝えることによって初めて聞いてくれる人が自分に当てはめて連想し、行きたいという意欲をわかせるのだと思います。今後応募者が増加し、この貴重な体験を分かり合える仲間がさらに増えることを心から願っています。



(財) 青少年国際交流推進センター ホームページ

(財) 青少年国際交流推進センター活動紹介パンフレットの完成に伴い、パンフレットの基調色である緑色に合わせてホームページをリニューアルしました。当財団が主催する事業や内閣府青年国際交流事業の案内等を随時更新していますので、ご確認ください。

「MACROCOSM」 (マクロコズム) ウェブ版 完成

当財団では、年4回「MACROCOSM」を編集・発行しています。この度、1994年11月に発行された第1号から最新号である

第92号までを、ホームページで閲覧することが可能となりました。

<http://macrocosm.jp/>

なお、「青年国際交流と事業参加者の事後活動」(通称年報)も引き続き編集・発行していきます。



(財) 青少年国際交流推進センター 活動紹介パンフレット



平成6年に設立された当財団の活動を紹介したパンフレットが完成しました。年間を通じて当財団が実施する活動を簡潔に紹介しているパンフレットです。既に都道府県関係者、青少年団体、内閣府青年国際交流事業の参加青年等に配布し、当財団の活動を広く理解していただいております。

(財) 青少年国際交流推進センター主催 第5回国際交流リーダー養成セミナー (3月12日(土)～13日(日))

テーマ：地域への貢献に取り組む
～地域の在住外国人への支援・在住外国人との協働プログラムづくり～
会場：国立オリンピック記念青少年総合センター
募集人数：約25名(応募者多数の場合は選考)
参加費：10,000円(1泊4食、受講料、資料代含)※事前振込
応募締切：2011年2月24日(木)必着
※申し込み方法とスケジュールの詳細は
→<http://www.centerye.org/event/2011/seminar/>

今月の表紙

SSEAYP International
アジアこどもの絵画展
テーマ：「夢」と「家族」
タイトル：Dream
作者：Hannah Wong Shi-en
年齢：6歳
国名：シンガポール



編集後記

今月の表紙は、1994年に実施された「SSEAYP Internationalアジアこどもの絵画展」の応募作品から選ばれました。この絵画展は、内閣府の青年国際交流事業の日本の事後活動組織である「日本青年国際交流機構(IYEO)」と、ASEAN各国の「東南アジア青年の船」事業の既参加青年の事後活動組織によって行われました。子どもたちの力強い絵をぜひお楽しみください。(3)

MACROCOSM 1月号 vol.92

2011年1月5日発行
編集 マクロコズム編集委員会
発行 (財) 青少年国際交流推進センター
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町
2-35-14 東京海苔会館6階
TEL: 03-3249-0767 FAX: 03-3639-2436
e-mail: macrocosm@iyeo.or.jp
URL: <http://www.centerye.org/> (CENTERYE)
<http://www.iyeo.or.jp/> (IYEO)

編集協力 内閣府政策統括官(共生社会政策担当)
日本青年国際交流機構(IYEO)

定価 200円 本体191円

印刷所 株式会社デックス
TEL: 03-3400-8089 FAX: 03-5469-5270

「ココロ花咲く、ステキな旅を。」

支店名	電話番号
札幌支店	011-221-0821
青森支店	017-723-3671
盛岡支店	019-651-8800
仙台支店	022-263-3232
秋田支店	018-866-0109
山形支店	023-641-4141
福島支店	024-523-4451
水戸支店	029-224-6627
宇都宮支店	028-636-7761
高崎支店	027-325-3201
さいたま支店	048-640-1009
千葉支店	043-243-0109
ストリームライン 新宿支店	03-5348-3500
横浜支店	045-326-1120
甲府支店	055-222-0381
新潟支店	025-243-1515
富山支店	076-431-7638
金沢支店	076-233-0109
福井支店	0776-23-2800
長野支店	026-226-4315
岐阜支店	058-263-4657
静岡支店	054-255-1919
名古屋支店	052-232-1091

支店名	電話番号
三重支店	059-221-3331
滋賀支店	077-565-0109
京都支店	075-361-5351
大阪支社第2営業部	06-6344-3927
神戸支店	078-221-1090
奈良支店	0742-23-2371
和歌山支店	073-425-3211
鳥取支店	0857-23-2001
松江支店	0852-21-5425
岡山支店	086-225-1746
広島支店	082-545-1090
新山口支店	083-972-5454
徳島支店	088-622-8991
高松支店	087-851-6666
松山支店	089-941-9231
高知支店	088-825-0109
福岡支店	092-739-0010
佐賀支店	0952-26-1131
長崎支店	095-827-4151
熊本支店	096-354-5765
大分支店	097-538-1091
宮崎支店	0985-25-6111
鹿児島支店	099-257-0109
沖縄支店	098-868-8822

国際会議からご出張まで、
お問合せは、上記支店またはお近くのトップツアー各支店へ

お客様満足度100%+αを追求するサービスマインド。

お客様の立場になる「想像力」、プラスアルファを創る「創造力」。

50年の実績と豊富な情報力を駆使して

高品質・高付加価値の商品とサービスを提供するトップツアー株式会社。

私たちは、旅を通じて新しい出会いと感動を創出する

[旅行インテリジェンス企業]です。



東京観光が社名を変えました。

トップツアー株式会社

官公庁長官登録旅行業第38号 日本旅行業協会正会員・オゾン保証会員
〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-5-25 西新宿木村屋ビル16階

<http://www.toptour.co.jp>

国際旅行事業部 ストリームライン新宿支店

03-5348-3500





博多/神戸のんびりカジュアルクルーズ 2日間

3月5日(土)～3月6日(日) 博多発～神戸着

旅行代金(大人お一人様・消費税込み)

36,000円～180,000円

参加しやすい土・日を利用したクルーズです。春の爽やかな風に吹かれながら非日常的な時間をお楽しみください。また、旬の素材を取り入れたディナー、ティータイムの美味しいスイーツや多彩なイベントなど、のんびり優雅なクルーズライフをどうぞ。



神戸発着 春の屋久島クルーズ 3日間

3月7日(月)～3月9日(水) 神戸発～屋久島～神戸着

旅行代金(大人お一人様・消費税込み)

79,000円～396,000円

神戸発着のにっぽん丸で、世界遺産の島・屋久島を訪れます。『もののけ姫』の舞台のモデルともなった白谷雲水峡原生林でのトレッキングのほか、体力に自信のない方でも豊かな自然に触れていただけるオプションツアーをご用意しています。船内では、多彩なイベントや自慢の食事をお楽しみください。神戸から屋久島へ、にっぽん丸での旅は乗り継ぎもなく快適です。



小笠原スプリングクルーズ 6日間

3月10日(木)～3月15日(火) 横浜発～父島～横浜着
(小笠原諸島)

旅行代金(大人お一人様・消費税込み)

197,000円～1,000,000円

船でしか訪れることができない神秘と奇跡がつつまの島・小笠原で穏やかな時間を満喫。人気のホエールウォッチングのオプションツアーのほか、ザトウクジラの実寸大タペストリーの展示、小笠原ホエールウォッチング協会職員による講演会なども。



名古屋/横浜カジュアルクルーズ 2日間

3月23日(水)～3月24日(木) 名古屋発～横浜着

旅行代金(大人お一人様・消費税込み)

33,000円～176,000円

カジュアルクルーズながら、船旅ならではの贅沢を気軽に満喫していただけます。夕刻に名古屋を出港して洋上を進むにっぽん丸は、大人が楽しむための空間になります。本格的なフルコースディナーやダンスなど、華やかなひとときをお楽しみください。



春の八丈島クルーズ 3日間

3月24日(木)～3月26日(土) 横浜発～八丈島～横浜着

旅行代金(大人お一人様・消費税込み)

81,000円～400,000円

横浜発着で、伊豆諸島南端に位置する八丈島にご案内します。島の南北にそびえる八丈富士と三原山がシンボル。一年を通じて色とりどりの花が咲く温暖な気候も魅力です。伊豆諸島最高峰でもある八丈富士でのトレッキングや、明日葉や島寿司といった郷土の美味満載の昼食など、島の文化や自然を満喫できる多彩なオプションツアーを予定しています。



ウィークエンド横浜ワンナイトクルーズ 2日間

4月8日(金)～4月9日(土) 横浜発～横浜着

旅行代金(大人お一人様・消費税込み)

43,000円～200,000円

週末を利用した手頃な料金と日程で、幅広い年齢層の皆様気軽に参加いただけるワンナイトクルーズです。「普段忙しくてなかなかクルーズに参加できない」という方にもおすすめ。また、三食付きですので、にっぽん丸ならではのきめ細やかなサービスや自慢の食事、のんびりした時間を満喫していただけます。



※表示の代金はコンフォートステートグループ3(1室3名利用)～グランドスイート(1室2名利用)の大人お一人様(船内食事付/消費税込)旅行代金です。 ※このほかにも各種クルーズがございます。お気軽にお問合せください。 ※掲載の写真はイメージです。